



多くの学徒隊・市民が犠牲となった『ひめゆりの塔』



79年前の6月23日、太平洋戦争末期の沖縄で行われた日本軍による組織的な戦闘が終結しました。このことから6月23日は沖縄戦の犠牲者らを悼む「慰霊の日」です。

県と県議会の主催で開催された「戦没者追悼式」において玉城知事は「平和宣言」を読み上げました。自衛隊の急激な配備拡張が進められている中で「沖縄戦の記憶と相まって、沖縄県民は強い不安を抱いている」と述べるとともに、県民が願う平和の島の実現に向けて、米軍基地の整理・縮小、基地問題の早期解決を訴えました。

ロシアによるウクライナ侵攻やガザ地区における軍事衝突では、多くの市民・労働者の命が奪われる事態になっています。日本においても玉城知事が述べたように、自衛隊の配備拡張などから見ても、戦争は過去のものではありません。一人ひとりが関心を持ち、戦争のない社会を実現するためにどう行動するべきかを考えていく必要があります。

戦争のない社会の実現に向け、今こそ一人ひとりが考え行動を！

6月23日「慰霊の日」を迎える